

## ●公共の利益のために働く●

このように、忠義とは主君にただひたすら従うことではなく、主君への忠誠をこえて藩や家の存続のために最善をつくすことだった。

幕末に日本が外国の圧力にさらされたとき、武士たちが藩のわくをこえて日本の存続のために立ち上がったのは、武士道の中に公共の利益のために働くことに価値を置く忠義の観念があったことと深い関係がある。

武士道と公共の利益との関係について、理解し難い表現である。

## ●公のために働く●

このように、忠義とは、主君のいいなりにひたすら従うことではなく、それを越えて藩や家を守る責任をもち、その存続のために武士としての最善をつくすことを意味した。

のちに幕末になって日本が外国の圧力にさらされたとき、武士がもっていた忠義の観念は、藩のわくをこえて日本を守るという責任の意識と共通する面もあった。このような、公のために働くという理念が新しい時代を用意したともいえる。

45番の間違修正(スペース調整のため)

